

第7回 南部町地域福祉計画策定委員会 議事録

日時 令和3年3月17日（水）14時00分～15時30分

場所 南部町役場法勝寺庁舎2階大会議室

（進行：朝日）

1 開会（委員長開会あいさつ）

（佐藤）本日はお忙しい中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。

策定委員会を令和元年5月に立ち上げ、それから関係者先や当事者団体などのヒアリングや、あるいは、アンケート調査の結果を紐解き、今日まで熱心な意見交換や多くの議論を重ね、南部町における福祉全般についても、色々な問題点や課題を明らかにし、そして対策を検討し、計画を練ってきた。

その結果、前回の委員会にて全会一致で承認され、本日もご臨席を賜っております陶山町長、そして、南部町社会福祉協議会・藤友会長に、この計画の最終版を渡すこととなった。手前味噌になるけれども、すばらしい計画が出来たというふうで大変喜んでいるところ。長い間にわたって議論をしていただいた委員の皆様、そしてアドバイザーとして議論をリードしていただき、かつ、ヒアリングなどにも積極的参加をいただいた鳥取大学の竹川先生、そして、健康福祉課、並びに、南部町社協の事務局員の皆さんに対して、心よりお礼を申し上げたい。ところで、計画ができあがって終わりということではないこと、皆さんも重々ご承知のとおりと思う。この計画で示した課題に対して、関係部署が連携して具体的なアクションプランをこれから立案していただいて、この計画に基づいて行動を起こし、そして結果を検証し、必要があれば、また、アクションプランを変更して、いわゆるPDCAのサイクルを回して行って、南部町の皆が分け隔てなく、住み慣れた町で安全に日常生活を営み、人と人とのつながりを大切に、生きがいを持てる持続可能な地域社会を実現していかなければならないと思う。

この策定委員会は、今回で役目を終えるわけではあるけれども、委員の皆様にかかれては、今後とも一層のご協力をお願い申し上げたい。

2 最終提案

（1）事務局説明

→資料に基づき、事務局より説明。

（勝部）今回提案する計画は、全体の策定委員会でいただいた意見を反映させたものとなっている。

まず、計画の策定に至った経緯について説明する。南部町では、平成16年に第一次南部町地域福祉計画を策定し、住民と行政の協働によって地域福祉を進めてい

くことを目標として、様々な施策にこれまで取り組んできた。平成 19 年には、7 つの地域振興協議会が設置され、それぞれの地域の自主性や特徴を生かして、地域課題の解決、地域づくりに取り組まれる中で、身近な福祉にも関心を寄せておられることと思う。一方で、社会の状況を見ると、依然として少子高齢化は進んでいる。そして、福祉サービスを必要とする人々も増え続けている。また、子どもや高齢者などへの虐待、孤立死、ひきこもり、また生活困窮者の増加など、様々な社会問題が顕在化するようになっている。そして、生活課題を幾つも抱える世帯であったり、制度の狭間にあつて、今あるサービスが受けられない方の問題など、これまでに経験しなかったような福祉課題というのが生じている。

こうした状況に対応していくために、改めて今、地域の状況と課題を整理して、住民のニーズにきめ細かく対応できる地域福祉を推進していくための指針として、このたび、地域福祉推進計画を策定する運びとなった。

この計画の基本理念は、「みんながいきいきと活躍し、心をつないで支え合う共生のまちづくり」である。この計画の推進を通じ、制度や分野の縦割りであったり、またサービスの受け手支え手という関係を超えて、色々な方々が、我が事として、人や資源が丸ごとつながることで、南部町の住民一人一人の生きがい、そして地域をともにつくっていきける地域社会を実現することを目指している。

計画では、国の制度や指針、社会状況の変化、そして南部町を取り巻く現状を踏まえて、4 つの基本目標と 13 の基本計画を設けた。特に、南部町の地域福祉の課題を踏まえて、4 つの重点取組を設けている。初めに、重点取組のうち、地域振興協議会における福祉機能の強化について。現在、地域では、町や社協からお願いしている委員など、様々な福祉の役や機能がありながらも、その連携が十分とは言えずに、似たような活動をばらばらに行っておられるという現状があった。

また、地域の地域で活動されている団体も役員の成り手がなく、活動が停滞しているような傾向も見られた。

そこで、地域振興協議会を 1 つの単位として、様々な住民組織や、福祉に関する機関が集まって、ネットワークを形成し、そこで福祉の専門職や、行政、社協も一緒になって、福祉の活動を強化していく。具体的には、誰もが気軽に集える場づくりや、地域の生活課題の発見相談、また、見守りや生活支援といった支え合い活動の充実など。これは、重点取組 4 健康づくりの推進とも関係が深く、地域の持つ福祉の役割や働きを強くしていく中で、人が集まる拠点となる集いの場を中心に、住民ニーズが高いと思われる介護予防活動など、様々な健康づくりの活動が地域の実情に合わせて実施されていくことを目指している。

続いて、重点取組 2 福祉学習の推進と担い手づくり。地域福祉を進めるためには、大人も子どもも一人ひとりが地域や福祉に関心を持つこと、そして、地域福祉活動を継続して実践していくためには、ボランティアなどの人材の発掘や育成も重

要になる。そのために、重点取組 1 にあった福祉ネットワークが中心となって、さらに学校や企業なども巻き込んで、誰もが参加しやすい実践型の福祉学習のプログラムを企画し実施していく。

続いて、重点取組 3 共生型総合相談の構築。生活課題が複雑化・深刻化しつつも、どこに相談していいかわからなかったり、また周りが気づきにくくなっているような現状がある。手助けや支援を必要としている人や課題を積極的に見つけて支援していくために、福祉の専門職や行政と住民が協力することで、課題の発見機能を強化して、支援解決できる仕組みづくりを行う。

計画の概要については以上だが、これまで様々な団体へのヒアリングを実施させていただいた。また住民の皆様から、建設的なパブリックコメントもお寄せいただいた。この計画は令和 3 年度から 5 年間の計画で、重点取組については、毎年進捗管理を行うこととしているが、期間中も住民の声を聞くことを大事にして、必要があれば見直しを行いながら進めたいと思う。

そして最後にこの計画は、地域福祉の推進役である社会福祉協議会が策定される地域福祉活動計画と、市町村が策定する地域福祉計画を一体的に策定しまして、地域福祉推進計画としている。今後も、地域福祉を社協と行政がしっかりとタッグを組んで、そして地域の皆様とともに地域福祉を推進してまいりたいと思っている。

(2) 最終提案

→佐藤委員長から、陶山町長と藤友社会福祉協議会会長へ南部町地域福祉推進計画最終提案書を手交。

(3) 町長・社会福祉協議会会長あいさつ

(陶山) ただいま地域福祉推進計画を頂戴した。約 2 年間にわたってご審議いただき、今日の日を迎えた。私はすべてのこの町の気候が地殻変動の中にあると思っている。今まで過去に私たちが足場を組んでいたものがすべて揺らいで変わっていく。その変動の中にあって、新たな地盤を見つけて、その時代時代にあった変化が必要。福祉もそうだし、まちづくりすべてにおいてになってくる。簡単に、高齢化、少子化と言うが、あと 25 年後には約 40%以上の働く世代が失われる。私たちが当たり前に暮らしている、今のこの地盤の上には立って語れなくなってくるというふうに思っている。誰が支えて、誰を支えるのか、そして、そのつながりというのは、本当に深く、強いものであり続けられるのかどうかというものを、私たちはこれからまず、まだ大きな変動を受けてない、この 5 年間の中で対していかなければいけないと思っている。

この福祉計画を、PDCA サイクルを回しながら、皆さんとともによりしっかりしたものに築き上げるよう努力する。本当に皆様ありがとうございました。

(藤友) この計画策定にあたっては、アドバイザーでお世話になった竹川先生をはじめ、

各委員の皆さん方に、長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。
この場を借りて心から敬意と感謝を申し上げます。

具体的な中身については、5年間の計画ということで、社会福祉協議会のほうも、本日まで色々な取り組みをしているが、いま社会の状況が大きく様変わりをしてきた。今までの計画に満足することなく、心を新たにしていからやり直す、そういうような気概を持ってこの計画に合わせた行動計画を作成して取り組んでいきたい。まだまだ地域社会の中では多くの課題が目に見えないところでたくさん存在している。そういったことをしっかりと吸い上げて、行政と一緒に、福祉力の向上につなげるような取り組みをぜひ頑張っていきたい。

この計画は、社会福祉協議会の行動計画も中に含まれているので、そういったことを十分理解をしながら、新たな気持ちで取り組んでまいりたい。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

～記念撮影～

(進行：朝日)

3 協議事項

(1) ロードマップについて

(勝部) このロードマップは、令和3年度より設置する福祉計画推進委員会の資料としての活用を前提に作成している。重点取組の項目ごとに、目指す姿、地域振興協議会・民間団体の役割、社会福祉協議会の役割、行政の役割という欄は、計画本文のほうから転記している。そして、重要業績評価指標(KPI)を新たに設けた。中には数値で評価しにくいものもあるが、なるべくどういったことができれば達成できるかという観点で指標を設定している。また、KPIの下に年次ごとの進捗の目安を設けた。また、右上には評価の欄を設けている。令和7年にはすべてが、また、そうならなくてもなぜ達成出来なかったのかということを中心に分析して、次の計画が引き継いでいくということが重要だと思っている。

進捗の目安の右側、取り組み実績の欄がそれぞれあるが、推進委員会へ提出する際には、事務局でそれぞれの取り組んだ内容を取りまとめる。また社協と行政の取り組み実績の欄には予定される取り組みを既に記入している。空欄の箇所は、その年度に新たに実施する取り組みに限って記入をしているため、前年から継続しているものに関しては「次年度以降も継続的に実施」などと表記している。それから席上に配付した、重点取組1の別紙、モデル地区事業についての事業案をご覧ください。こちらは、振興協議会の会長さん方には、以前ご覧いただいたロードマップに修正を加えたものになっている。今回案としてあげているのは、まだ完成版としての十分な議論が出来てないため。実際にこれから協議会へ出かけて話をしていく中では、こちらを説明資料として使いたいので、もっとわかりやすくブラッシュアップしていく。また後ほど、その辺りもご意見いただけると良

い。特に、モデル地区で実際にどんなことを取り組むのか。また、協議会の取り組みや、社協・行政の取り組み、それによって地域がどう変わるのか、そういった辺りをもう少し精査してわかりやすくお伝えできるようにしたい。あくまでまだ案の段階なので、こういうイメージかなというところでお読み取りいただければと思う。それでは、大きな図が書いてあるほうの面をご覧ください。こちらは、取り組み初年度の流れについて示している。まず、1年目の上半期に福祉推進事務局、これは地区によって様々な形態になろうかと思うが、役場と社協も一緒になって設置してまいりたい。

それから、先回の策定委員会的时候にも竹川先生が事務局に宿題というふうにおっしゃっていたが、まず、地区の現状把握・課題整理、我々は地区診断と呼んでいるけれども、計画の前半のほうに色々なデータを示していたが、それを地域ごとにより細かく読み取っていけるようなものを用意して、改めて地区の課題をまず整理したいと思っている。

それから、この計画を知っていただく・共有していただくための学習会だとか、地域課題の解決、また地域の情報収集のためにも、色々な研修の機会というのをこの推進事務局の中で相談をして設けていきたい。一応モデル地区の初年度の取り組みというふうになっているが、この上半期の事業内容は、どの協議会でも1年目から取り組めるところから取り組んでいただきたいと思います。我々もそのつもりで出るので、よろしく願いいたします。

そして、その研修会には、参加者の例ということであげているが、地域福祉に関わる方、老人クラブで、ボランティア団体、民生児童委員、行政や社協がお願いしている委員、関心をお持ちの方々…幅広い方に集まっていただき、またそちらに地域の介護事業所、社会福祉法人の方など、専門職の方に入っていただくような環境をつくっていくということで、ネットワークがだんだんとできてきたら、いよいよ下半期に、次年度の事業計画・活動内容を時間をかけて、検討・作成、そちらのほうには100歳体操を拠点施設で週1回というふうにあげさせていただいているが、これも地域の課題から様々な事業の案が出てくるかと思う。それに対してどういったことを翌年度以降準備していくのかというようなことを、引き続き検討をしてまいりたい。そしてその中から、色々なニーズが出れば、それが常設型サロンの設置であったりとか、地区相談窓口の設置であったりとか、必要によっては、福祉コーディネーターの設置といったことも、行ってまいりたい。そしてその間にも、役場と社会福祉協議会は、集落のいきいきサロンであったり、100歳体操であったり、まちの保健室も健康福祉課の主催事業ではあるが、積極的に出かけていき、課題の聞き取りや関係性の構築といったことを年間通して進めてまいりたい。

(佐藤) ロードマップについて、質問あるいはご意見のある方、挙手をもって発言してく

ださい。いかがでしょうか。

(唯) 振興協議会で各活動事業部の活動計画を策定している。新年度に向けた事業計画において、あいみ手間山としては、重点事業、いわゆる 4 つの部を絡めて行う事業にも、地域福祉に対する事業をあげたし、もうひとつは集落をメインとした体制づくり。ふれあい部の中にもこういった形で集落に対する福祉の事項をあげたので、最終的には、4 月下旬の評議会で承認いただくのですけれども、それ以降何らかの形で社協あるいは健康福祉課と具体的な取り組み、内容的にはまずはネットワークづくりを、うちの場合は地域福祉委員、児童民生委員、健康増進委員、それからふれあい部の 4 つの委員が集まった組織ができていますので、それを何とか充実させていきたいと思うので、それに対して、社協あるいは行政のほうから来ていただき本年の内容をまずやっていけばいいのかなと。昼間はやはり皆さん仕事しているので夜の会合になる。行政や社協が対応できるか、今お願いしておかなければと。

(佐藤) 事務局いかがですか。

(糸田) そういった会にどんどん参加させていただきたいとこちらも思っている。時間台について、ご希望に沿うように調整していきたい。

(唯) 対応ができるということか。

(糸田) 対応したいと思う。

(佐藤) 社協も大丈夫でしょうか。

(國本) 大丈夫です。

(佐藤) よろしいですか。(唯：ありがとうございます。) 他にございませんか。

(谷口) モデル地区立ち上げに 2 地区の指定を予定しているということでぜひ手を挙げたいと思うが、毎日常勤というような人がおいそれと見つからない。コーディネーターの配置で柔軟な勤務といいますか、夜や日曜日の会合があるでしょうし、半日ぐらいの目安で 1 週間に何日というような勤務が認めてもらうような配置をお願いできれば人選もできやすいと思う。いずれずっと動いていけば、そういうことを言っておられんというような状況になると思うが、初年度ということもあり、柔軟な対応をしていただければありがたいと思う。要望です。

(糸田) モデル地区に手を挙げていただけるということで、その辺りも今後ご相談させていただき、検討したい。ほかの地区にもまた随時ご相談なりご説明なりにあがりたいたいと思うので、よろしく願いいたします。

福祉コーディネーターは、予算としてはフルタイムで 1 人分ということでつけておりますが、勤務の体制については、できるだけ柔軟に対応ができればと思っています。言われるように、最初からフルタイムで毎日必要なのということも、事業の内容によって、柔軟に対応ができればと思う。

(佐藤) ご意見がないようですが、先生何かありますか。

(竹川) ここまで形として実施計画・ロードマップということで、KPI・重要成果指標を掲げて、そして各年次の進捗の目安を示し、そして目標をしっかりと行政と住民、社協、それぞれが一体となって取り組んでいこうという、ここまでの計画をつくっているところは、全国でもそうはない。南部町は全国に誇る地域福祉推進計画をつくられたということは、胸を張って言えると思うので、逆に成果が問われる。ここから本当の勝負だというふうに改めて身が引き締まる思い。

この4月からいよいよ実施年次に入っていくが、私もできる限りの応援のために南部町にまた足を運ぶので、皆さんぜひ本当に全国に誇る計画を持ったということで、全国に誇る地域をつくっていくということを胸に抱いていただき、今後の5年間取り組んでいただければと心から思っている。どうぞよろしく願いいたします。

(2) その他

(唯) 協議会は組織ができあがっているという中で、老人クラブやボランティア団体をいかに協議会の活動の中で一緒になってやるかという1番難しいところを、今後具体的に取組もうというときに、どうやっていくのか。そこら辺の考え方をきちんとしておかないと、非常に難しいなと思っている。せっかく計画策定にそれぞれの団体が参加されたので、どんな形で回っていくかということを新しい年度になって取組んだ段階で調整したほうがいい、そういう意見も参考にさせていただき、これから実践をしていっていただけたらありがたいと思う。

(糸田) おっしゃるとおり。こういった機会が今までなかったもので、こういったつながりをつくっていただいたというのをチャンスにして、活かしていきたいと思う。

(内藤) 福祉推進事務局の設置について、新年度各協議会は早急に設置するという考え方でよろしいか。

(糸田) 協議会によって既に次年度の事業計画も固まっているところだと思うので、その辺りもこれから相談をさせていただきながら、設置いただくとなるとやはりモデル事業に手挙げをしていただくという流れになるかと思うので、必ず皆さんすぐ設置してくださいということではございません。

(内藤) 行政と社協と協議会と3者で、という形ですね。わかりました。(佐藤：よろしいですか) それがきちっと確約できれば。この計画、とても良い計画なので、これを本当に実現していくためには、3者が協力をして色々取り組んでいかなければいけないことがあるし、協議会の組織というものを十分活用できるような状況をつくっていかなければいけないので、そのところはぜひお願いをしたい。

(佐藤) 最後に、土江副委員長のほうからご挨拶をいただきたい。

(土江) 皆さんお世話になりました、副委員長という立場で佐藤委員長にほぼお任せでした。最後に発言の機会をいただきましたので、お礼をさせていただきたい。先ほどからあるように、いい計画が出来たと思う。私は委員会には途中からの参加で

したけれども、非常に意見が色々出て、それを事務局のほうでも調整しながら、つくっていった計画だと思う。そういった意味で委員の皆さんも、この計画には愛着を持っていただいていると思うので、これを実践のほうに移らせていただければと思う。

竹川先生には、高いハードルを設定していただき、そこにいろんなアイデアを出しながら、実際に合った形に本当に落ち着くところに落ち、ありがとうございました。

最後に、行政と社協と、それから協議会、この3つがこれからも連絡をとって相談をし合いながら、実践のほうにいけることを願っているなので、よろしく願いいたします。足かけ2年、皆さんどうもありがとうございました。

4 閉会

(佐藤) それでは以上をもちまして、閉会します。どうも皆さんお疲れまでした。

(一同) ありがとうございました。(拍手)